

国語科学習指導案

令和6年1月25日(木)第6校時

I年2組 36名

授業者 牧野 高明

1 題材名 少年の日の思い出

2 題材の目標

- (1) 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C(1)ア
- (3) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C(1)エ
- (4) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C(1)オ
- (5) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

3 本題材における言語活動

『少年の日の思い出』を読み、それぞれの興味・関心に応じて問いを立て、既習の言語技能を活用しながら探究する。

4 題材設定の理由と指導方針

附属学校園国語科プロジェクトでは、「言葉を調整する力を育てる国語科授業の創造」という研究テーマを設定し、研究を行っている。「言葉を調整する力」とは、「情報を、相手・目的・場面に合わせて、考え表現していくこと」である。ここでの情報とは、学習指導要領においても示されている「話や文章に含まれているもの全般」や「固有の知識や経験」を指し、それらは自分の考えに合わせて分析・吟味する対象となるものである。さらに情報を活用し発信する際には、情報を自身の表現にどう組み込んでいくか、その具体的な表現方法を理解しなければならない。つまり、読解や表現の対象となる情報を操作的に扱うことが必要であり、研究テーマの「言葉を調整する力を育てる」にはこうした意味が含まれている。

本題材は、『少年の日の思い出』を読み、それぞれの興味・関心に応じて問いを立て、既習の言語技能を活用しながら探究する授業である。これまでに習得してきた「言葉を調整する力を構成する諸要素」を関連させながら課題解決を行う経験を積み重ねることが、「言葉を調整する力」を獲得し、本附属学校園で育てたい資質・能力の1つである「学びをつなげる力」の育成に繋がると考える。また、同じく本附属学校園で育てたい資質・能力の1つである「やり遂げようとする力」を育成するために、生徒自身がそれぞれの興味・関心に応じて課題を設定し、課題解決の方法や学習の進め方などを調整することが有効だと考える。「学習の個性化」を充実させ、これらの資質・能力をよりよく育成することを目的とし、本題材を設定した。

以上のような考えのもと、本題材においては次の指導方針を立てた。

「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿

- ・これまでの学習で身につけた力や知識・技能を関連付けて課題を解決する姿
- ・見通しをもって学習に取り組み、課題解決の方法や学習の進め方などを自ら調整する姿

「学習の個性化」を促す手だて

- (1) 「言葉のお道具箱」の活用
- (2) 「探究活動シート」の活用
- (3) 生徒が自らの学びを省察できる場面の設定

(1)に関して、「言葉のお道具箱」とは、ロイロノートの共有ノート機能を活用してクラスごとに作成した、これまでの学習履歴を蓄積したものである。クラス全員と教科担任で共有しており、生徒たちが主体となって編集してきた。「言葉のお道具箱」を活用させることで、自らの課題を解決するために必要な言語技能を想起させ、これまでに習得してきた「言葉を調整する力を構成する諸

要素」などを関連させながら、よりよい課題解決に繋げさせたい。

(2)に関しては、探究計画時に問いや課題解決の方法、探究の進め方を整理させることで、生徒が見通しをもって探究学習に取り組めるようにする。また各時の最後には、「探究活動シート」を活用させることで自らの学習状況を振り返らせ、必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を調整させるなど、生徒の自己調整の一助としたい。

(3)に関して、本題材では中間報告会を行う。中間報告会でそれまでの探究の成果と課題について交流することで、それぞれの学びの成果と課題を明確にさせ、問いや課題解決の方法、学習の進め方などをよりよく調整させたい。

5 題材の評価規準

評 価 規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ②「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	①粘り強く作品を分析的に読み、既存の学習を生かして自ら設定した問いを解決しようとしている。

6 指導計画（9時間扱い）

時	主たる学習内容	指導上の留意点	評価内容	記録	評価方法
1	・本題材の課題を確認する。 ・『少年の日の思い出』を通読する。	・『少年の日の思い出』を読み、それぞれの興味・関心に応じて問いを立て、既習の言語技能を活用しながら探究することを確認する。 ・問いを考えることを見通しながら、疑問点や気になることをメモさせる。	思・判・表①		観察 ワークシート
2	・共通テーマ「エーミールは本当に嫌なやつなのか」について考える。	・既習の言語技能である「事実と考え」を用いて文章を分析させる。 ・次時以降にそれぞれが課題を探究する際の見通しを立てさせる。	思・判・表②	○	観察 ワークシート
3	・探究計画を立てる。	・作品に対する読みが深まるような問いを考えさせる。 ・「言葉のお道具箱」を活用させるなど、既習の言語技能を想起させ、自ら立てた問いを解決するための分析方法を考えさせる。 ・見通しをもって探究活動に臨めるように、ポスターセッションまでの探究の進め方を考えさせる。	知・技①		観察 探究活動シート

4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・探究計画にもとづいて探究活動を進める。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の活動状況を把握し、適宜助言する。 ・必要に応じて級友と情報の共有をさせる。 ・自らの学習状況を振り返らせ、必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を調整させる。 	思・判・表②		観察 探究活動シート
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会で前時までの探究の成果と課題について交流する。 探究活動シートを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いの方向性が近い生徒同士で意図的にグループを形成する。 ・これまでの探究活動で見出したことや現状では判然としないことを報告させる。 ・発表後、班員から意見・質問・助言を受けさせる。 ・中間報告会を通して明確になったこれまでの探究の成果および今後の課題、新たに生まれた疑問を、探究活動シートに整理させる。 ・必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を調整させる。 	思・判・表③		観察 探究活動シート
7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・探究計画にもとづいて探究活動を進める。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の活動状況を把握し、適宜助言する。 ・必要に応じて級友と情報の共有をさせる。 ・自らの学習状況を振り返らせ、必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を調整させる。 	態度①	○	観察 探究活動シート ポスター
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションで探究の成果を発表する。 ・これまでの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の問いと分析内容、問いに対する結論および考察（探究することでわかったことや見えてきたこと）などを発表させる。 ・発表後、オーディエンスから意見や質問を受けさせる。 ・本題材での自らの学びを振り返らせ、探究活動の成果と課題を整理させる。 	思・判・表③	○	観察 探究活動シート

7 本時の指導

(1) 題 目 中間報告会を開こう

(2) 本時の目標

これまでの探究の成果と課題を交流し、改めて自らの読みを振り返ることで、自分の考えを確かなものにすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)オ

(3) 本時の指導方針

本時は中間報告会で前時までの探究の成果と課題を交流し、改めて自らの読みを振り返ることで、それぞれの学びの成果と課題を明確にするための授業である。

本時の中で生徒が自らの学びを省察できる場面の設定をし、「探究活動シート」を活用させて自らの読みの振り返りをさせることで、問いや課題解決の方法、探究の進め方などを生徒が自ら調整できるようにさせたい。そして次時以降の探究活動において、生徒が作品をより読み深められるようにさせたい。

(4) 準備 教科書、タブレット、探究活動シート、モニター

(5) 展開

※校内研研究テーマとの関連

学 習 活 動	評 価	指導上の留意点
<p>1 本時の学習について確認する。</p> <p>2 前時までの探究の成果と課題を交流する。</p> <p>3 探究活動シートを整理する。</p>	<p>思・判・表③</p> <p>・これまでの探究の成果と課題を交流し、改めて自らの読みを振り返ることで、自分の考えを確かなものにしていく。(観察・ワークシートの記入状況)</p>	<p>・中間報告会の目的や進め方を確認させる。</p> <p>・問いの方向性が近い生徒同士で意図的にグループを形成する。</p> <p>※これまでの探究活動で見出したことや現状では判然としないことを報告させる。</p> <p>※発表後、班員から意見・質問・助言を受けさせる。</p> <p>※中間報告会を通して明確になったこれまでの探究の成果および今後の課題、新たに生まれた疑問を、探究活動シートに記入させる。</p> <p>※必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を調整させる。</p>
十分満足な様相の一例	おおむね満足の様相	努力を要する生徒への支援
<p>中間報告会を通して明確になったこれまでの探究の成果および今後の課題、新たに生まれた疑問を探究活動シートに整理し、それを踏まえてさらに作品を読み深められるよう、問いや課題解決の方法、探究の進め方を調整している。</p>	<p>中間報告会を通して明確になったこれまでの探究の成果および今後の課題、新たに生まれた疑問を探究活動シートに整理している。</p>	<p>中間報告会で受けた意見・質問・助言や、級友の報告の中で参考になった課題解決の方法や問いに対する考え方を想起させ、それらを踏まえて探究活動シートを整理させる。</p>